

事故進展解析 内外叡智の活用(OECD/NEA BSAFプロジェクト)【資料3】

Benchmark Study of the Accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station (BSAF) Project

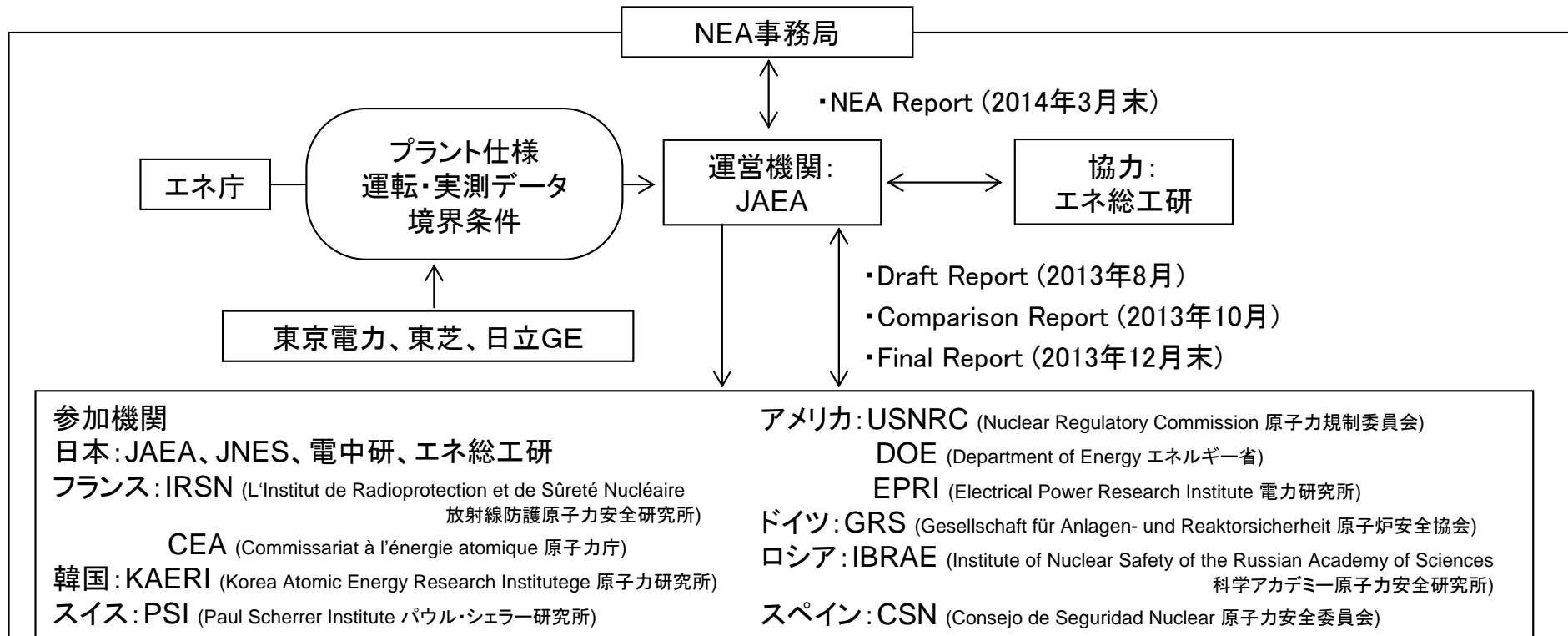
・期間:2012年11月～2014年3月(平成25年度末)

・目的:

①BSAFプロジェクト参加各国が共通の解析条件に基づき、福島第一原子力発電所事故の事故進展挙動を解析し、各国の解析結果の比較検討に基づき、事故進展挙動、原子炉容器および格納容器内の状況、デブリの分散状況等を評価し、将来の燃料デブリ取出し計画に資する。

②BSAFプロジェクト参加国が使用する解析コードにおける解析手法や物理モデルの改良に資する。

・解析対象:1号機～3号機の事故進展挙動(炉内及び格納容器内)、スクラム後約6日間(3/17 正午まで)の挙動



第1回運営会議・ワークショップ:2012年11月6日～8日

第1回プログラムレビューグループ会議:2013年2月(予定)

第2回ワークショップ:2013年10月(予定)

BSAF WEBサイトを通じた情報の共有

注)海外各機関の日本語名称は参考扱い

事故進展解析 内外観智の活用 (NEA BSAFプロジェクト)

The OECD-NEA Benchmark Study of the Accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station (BSAF) Project

第1回運営会議 (2012年11月6日 (火) AM)

- 参加人数約50名(内外国人約20名)
- 議長に永瀬 文久氏 (JAEA)、副議長にRichard Lee氏 (USNRC)を選出
- NEA事務局から提案されていた協定書を承認
- 日本からプラント情報、解析における境界条件、プラント運転情報、福島第一原子力発電所事故のPIRT、及び専門用語の定義集を提出することを承認
- NEA事務局より各参加機関に運営会議及びプログラムレビュー会議への参加者をそれぞれ1名ずつ指名することを要請
- 各参加機関はプラントの設計情報が開示され次第解析を実施する予定



ワークショップ (2012年11月6日 (火) PM - 2012年11月8日 (木) AM)

- 参加人員約100名(内外国人約20名)
- 開示されるプラントデータ、プラントの運転記録、プラントでの計測データ、解析に適用する境界条件、福島第一原子力発電所のPIRT、SAMPSON及びMAAPによる予備解析、情報を公開するウェブサイトに関して説明
- 参考のためサンディア国立研究所で過去に実施されたBWR原子炉圧力容器下部での溶融燃料挙動に関する実験について紹介
- 日本で実施の解析結果の妥当性に関する質疑、各国で実施する共通の解析条件の設定方法に関する議論を通じて、参加者の共通理解が深まった
- 次回会合は、2013年2月頃に開催予定



事故進展解析 内外観智の活用(NEA BSAFプロジェクト)

Benchmark Study of the Accident at the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station (BSAF) Project

福島サイト視察 (2012年11月8日(木)PM – 2012年11月9日(金)PM)

・参加人数32名

・1Fサイト内及び1F5の原子炉建屋を見学

- ・ 炉内状況把握のためのコード改良に重要な、原子炉下部構造を格納容器内部で確認
- ・ Mark-I格納容器の特徴的なドーナツ上のS/Cをトラス室にて確認
- ・ 水素爆発の評価に参考となる、原子炉建屋内の関係箇所(大物搬入口とハッチ、オペレーティングフロア等)を確認



格納容器内部
(原子炉圧力容器底部を下から見上げる位置)



オペレーティングフロア